

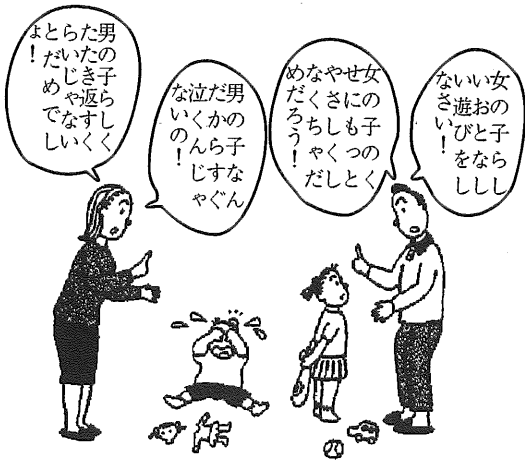




# ジェンダーチェック ~家庭編~

人は「男、女」である前に一人の人間です。ところが、今までの世の中のしくみや慣習といったこだわりが、これまで人間を生きにくくしてしまいました。女(男)だったばかりにつまらない思いを経験したことはありませんでしたか？

知らず知らずのうちに、あなたも身近な人になんか思いをさせているかもしれません。なにしろジェンダーは、簡単に常識とすりかわってしまうものなのです。自分はお互い人がどう思うかを気にせず、「自分はお互いが大切にするためにも、作られた常識を一つ一つ見直すことは、とても重要なことです。」



## ジェンダーとは？

「女(男)らしさ」や「性別による役割」は生まれつき備わっているものではなく、社会の慣習や文化が作りあげた、目には見えない決まりのようなものです。このように「社会的、文化的(常識や思いこみ)につくりあげられた性別」をジェンダーといいます。

家庭生活について、あなたならどう考えますか。  
「はい」か「いいえ」でチェックしてみてください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・夫は家事を手伝わないが、家計を支えてくれるので仕方ない。</li> <li>・家族のために、妻・嫁(女性)が我慢すればいいと思うことがある。</li> <li>・仕事を成功させるためには家庭の事は二の次になっても仕方ない。</li> <li>・家族がそろって休みの日は、妻(女性)はかえって忙しい。</li> <li>・妻(女性)が家事をやるのは当たり前のことだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親が倒れたら娘や嫁は仕事を辞めても看病すべきだ。</li> <li>・女の子は将来家庭に入るのだから勉強はそこそこでいい。</li> <li>・男の子は家の手伝いなどするより勉強して良い成績をとってほしい。</li> <li>・夫(男性)は休日も家族より趣味や仕事仲間と過ごすことの方が多い。</li> <li>・息子が育児休暇をとるなど情けない。</li> </ul>
---	---

## あなたはどのタイプ？

「はい」が10~7の人

**トッテモ古代人**  
あなたは生きた化石。おそらく博物館でも引く手あまた。ギネスブックに載ること間違いなし。  
でも、ちょっと待って!! このままでは、大きなお荷物になりかねません。

「はい」が6~4の人

**シッカリ地球人**  
21世紀もすぐそこ。ナンカへん?!と気づき始めたあなたの時代も目の前。  
これをきっかけに「自分らしく」生きる家族ってどんなものかじっくり考えてみてね!

「はい」が3~0の人

**チャッカリ宇宙人**  
うおっー!! 手ごわい相手。地球の弱点をすでに見透かしている。あなたはまさに時代の先駆者。弟子入りしたい!  
お願い、お師匠さんと呼ばせて!!

# 子どもを産み育てることに夢を持てる社会を

(平成10年版 厚生白書のテーマより)

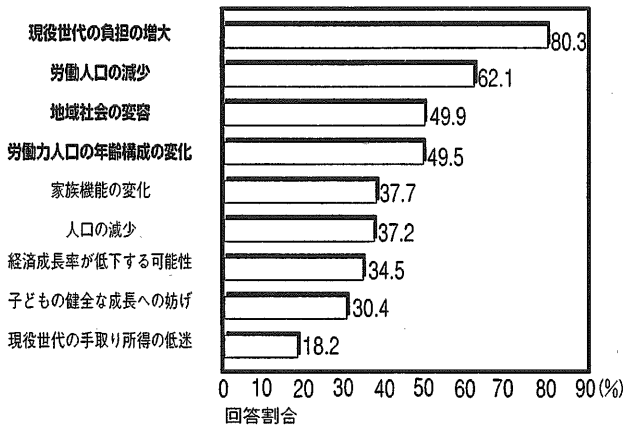
## 少子社会を考える ～子どもが減っている?～

Q) 平成9年の合計特殊出生率が、1.39人って  
 ということ?

A) 簡単に言えば、ひとりの女性が一生の間に産む  
 子どもの数が1.39人ということです。

人口を維持していくのに必要な水準は、2.08人  
 なのでとても低い数値です。このままでいくと日  
 本の人口は2050年には約1億人、2100年には6700  
 万人になると考えられます。若い人が少なく、高  
 齢者の割合が高くなり、2050年には3人に1人は  
 65歳以上ということになるのです。

### 少子化が与える影響



資料：1997(平成9)年度厚生科学研究「少子化社会における  
 家族等のあり方に関する調査研究」

### やっぱり減っている八戸の子どもの数

～八戸市内3つの学校から見た  
 小学校1年生のクラス数・児童数の今と昔～

	20年前 昭和53年 (1978)	10年前 昭和63年 (1988)	いま 平成10年 (1998)
柏崎小	4学級 176人	5学級 169人	3学級 119人
鮫小	5学級 205人	4学級 127人	3学級 99人
明治小	3学級 103人	2学級 65人	2学級 42人

Q) それは具体的にどうということ? 想像もつか  
 ないのですが……

A) まず働き手が少なくなり、女性の雇用や高齢者の再  
 雇用をしても追いつかなくなります。現役世代の社会  
 保障(医療、年金、福祉)における負担が多くなり、  
 家、墓など、跡継ぎ問題が生じてきます。つまり1組の  
 夫婦で、4人の親を看取り、墓を守り、家を継いでい  
 かなければならないということです。また、子どもを  
 産んでも子どもそのものが少ないために、周りに遊び  
 相手がいなくなるかもしれません。

### 編集 後記

第1回めはいかがでしたでしょうか。  
 スタッフ4人、力を合わせてここ  
 までたどりつく事ができホッとして  
 います。だけどまだ始まったばかり。少しでも  
 何かしら新しい風を吹き込むことができたらと  
 思っております。皆さんの周りでの出来事や、  
 知って欲しいこと、言いたいことなどございま  
 したら、どんどんお寄せください。

感想やご意見などもお待ちしております。



編集スタッフ

松橋いく子 工藤 伸明  
 滝谷 淳子 田向 令子

Q) でもどうして出生率が下がってきたのですか?

A) 男女ともにその生き方が多様化し、仕事を続けるこ  
 とを望む女性や結婚をしない男女が増えてきていると  
 いうことがあげられるでしょう。

また、家庭を持ちながら仕事を続ける女性には「男  
 は仕事、女は家庭」から「男は仕事、女は家庭と仕事」  
 と、二重の役割が要求され、負担が増えたからではな  
 いでしょうか?

女性が仕事を持っていても出産、育児  
 が何の問題もなくできるような環境が必要  
 になってきます。男性も女性も一緒に、  
 真剣に考えなくてはならない時がきてい  
 るのではないのでしょうか。

問い合わせ 女性青少年課 〒031-8686 八戸市内丸1-1-1  
 ☎43-2111 内線459